

手術看護学会年次大会 in福岡 無事閉幕

チーム医療における手術看護の大切さを、世界と語り合う

2014年10月10日(金)・11日(土)の2日間、第28回日本手術看護学会年次大会(会場：福岡国際会議場)が盛大に開催された。今年は第4回アジア周術期看護学会会議(ASORNA)との合同開催ということもあり、アジアを中心に世界各国から手術看護に携わる看護師が博多に集結した。

メインテーマは「周術期の

チーム医療」。サブテーマはそれぞれ、日本手術看護学会では「いのちに寄り添う手術看護」、ASORNAでは「多職種との協働」を掲げ、チーム医療における看護職の果たす役割の重要性について、様々な視点から活発な意見交換が行われた。特に、講演やシンポジウムでは、海外での事例が紹介されるなど、普段はなかなか聞くことのできな

い情報が満載であった。術中・術後訪問や患者・家族への心理的援助の研究発表では、その施設ならではの様々な取組みが報告された。ノンテクニカルな部分において、施設状況や環境に合わせた工夫が施されており、独自の仕組みや活動に多くの関心が集まっていたようだ。参加者は改めて、専門的な知識や技術・倫理観を磨くことはもとより、職種の壁を越えて様々な立場の人と協働しながら患者さんと向き合う「手術看護」の醍醐味にふれる機会となった

リブドゥは企業活動をアピール。ブース背景を彩ったのは、生命を感じさせるユニークなアート。愛媛県新居浜市のキット生産工場では、NPO法人エイブル・アート・ジャパンに所属する障がいのある人たちによって描かれた多くの作品に囲まれ、働く社員に安らぎと活力を与えてくれている。今回、これら作品のごく一部をレブリカで紹介したところ、大きな反響をいただいた。無機質となりやすい手術室もまた、内装やデザインに力を入れる施設が多いとのこと、当社の取組みに共感いただ

好評 全国で展開中

地区大会でメイクアップセミナー



キットメーカーであるリブドゥがなげ化粧品の話をもっとよく質問される。以前に本紙でもご紹介した通り、そもそも当社にとって商品を提供する目的は、看護師の手術準備や片づけ時間を短縮することの先にある。それは、キットで短縮できた時間を「看護師にしかできない本来業務に、より専念してもらう」ことであり、キットはその環境づくりをサポートする手段に過ぎない。

印象を変えるだけでも、患者さんに安心感を与える要素のひとつになるのでは…そんな気づきからスタートした「手術室看護師向けメイクアップセミナー」企画も3年目となり、昨年は研修テーマの一つとして取り上げたいという要望を全国からいただいた。各地で開催した様子をお伝えしたい。

日々忙しい業務の中、ほっと息抜きをしながら、患者さんの視点で看護を見つめていただくと機会として役立てていただければ幸いです。

●東海地区学会(2014.11.8)
昨年に引き続き2年連続の開催。今年は、「身だしなみ編」と「お疲れ素肌編」の2部構成で開催し、計61名の方にご参加いただいた。昨年の60分から90分にセミナー時間を拡大、個々の悩みにも対応するゆとりを持たせたプログラムで、リラックスしながら学んでいたただけだ。「顔の印象がガラリと変わってびっくりした。」「これからの化粧に活かすことができそう。」など、参加者の95%が満足したとお声をいただいた。

●富山地区研修会(2014.11.29)
研修のテーマを「接遇」とし、たっぷり120分の講座として開催。総勢56名の参加者は皆、一斉に素顔になるところからスタートした。基礎化粧や下地のつけ方に始まり、メイクアップは看護師にふさわしい色の選び方など充実した内容となった。「いつもより顔色が良くなった。」「印象が良くなったが患者さんに聞いてみます。」など、今までにない視点の研修効果に驚くと同時に、実に参加者の100%が満足との評価をいただいた。

●山口分會セミナー(2014.11.29)
手術看護に関するテクニカルな講義後に、60分のお手軽なセミナーとして企画。22名が参加し「今までキツイ印象だった眉を優しくする方法を知ることができたので良かった。」「講義後のリフレッシュになった。」など参加者の95%が満足したと評価。実習を通じて、職場でのメイクに関する悩みや疑問を解消していただけたようだ。



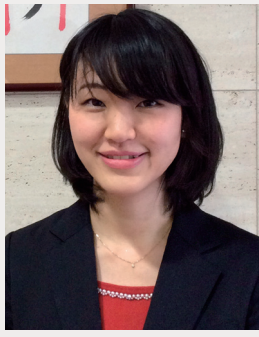
教えて!

「お産」事情

お産パットのパイオニア、大衛株式会社の営業企画部に所属し、全国各地の病院・助産院で勉強会を開催している大瀧裕子氏に、話をうかがった。

大瀧さんの仕事内容を教えてください。

当社の広報に関わる業務全般と、病院や産科専門病院・助産院などで助産師さんへの勉強会を開催しています。年間50



大衛株式会社 営業統轄本部
メディカル事業本部 営業企画部

大瀧裕子氏

「60回くらいですね。多い年は100回を超えることもあるんですよ。」
「助産師さんからはどんな要望がありますか？」

最近では、インターネットで情報がすぐに得られる世の中ですから、妊婦さんたちは出産前後のQOL向上のニーズが高いですね。ご自身が通う産婦人科の評判や「〇〇」などについても、すぐ情報をもつていらつしやいます。産科医や助産師の不足が叫ばれていますが、それでも独自の取り組みや特長をうたっていないと妊婦さんが集まらない厳しい時代

報をもつていらつしやいます。産科医や助産師の不足が叫ばれていますが、それでも独自の取り組みや特長をうたっていないと妊婦さんが集まらない厳しい時代



です。今、私が取組んでいるテーマは、産前からの骨盤ケアについてです。産前からケアすることで、出産時の出血量が少ないという学会発表もあり、とても関心度の高いプログラムです。

「出産施設によって、どんな特長がありますか？」

大学病院や総合病院では、母子の安全を最優先にチーム医療を提供してくれますので、リスクを持った妊婦さんには心強いです。母乳ケアや出産スタイルの自由度が高いのは、やはり助産院ですね。充実したサービスは専門病院が得意です。特色豊かな施設に多く出会います。入院中の食事や妊婦ヨガ教室をウリにしたり、ゴージャスな洋館風やナチュラルな木目調の内装にこだわるなど様々です。分娩室ごとにテーマカラーが違って、どの雰囲気でも産みたいか自由に選べる病院もありますよ。

個人的な意見ですが、私なら妊娠初期から助産師さんが少々やかましく関わって指導してくれるようなところで産みたいな一と思っています。(笑)
多くの現場におうかがいして感

音楽で手術の効率アップ!?

昨年12月11日付でライター通信から、興味深い記事が配信されたのをご存じだろうか。

英医学誌「ブリティッシュ・メディカル・ジャーナル」のクリスマス特別号への掲載論文で、手術に携わるスタッフの約80%が、手術室で音楽が流れると効率が高まると答えたことが分かったそうだ。英音楽グループ「ビージーズ」のヒット曲などが人気で、コミュニケーションが円滑になり、ストレスが軽減されるという。特に音楽を頻繁に聞く外科医の間

では、集中力が上がり、手術のパフォーマンスが上がるとの意見も出ている。外科医に人気が高いのは、ビージーズの「ステイン・アライヴ」のほか、シャーデーの「ムース・オペレーター」、ピンク・フロイドの「コンフォタブリー・ナム」、ワムの「ウキウキ・ウェイク・ミー・アップ」。逆に最も避けられている曲は、R.E.Mの「エブリバディ・ハーツ」、クイーンの「地獄へ道づれ」。なんと英国らしい、ブラックジョークな論文のしめである。(陶守)



(陶守)

大衛株式会社は衛生材料メーカーとして1951年（昭和26年）に創業、1961年に発売したオサンパットは業界屈指の老舗ブランドだ。医療の現場では「アメジスト」でおなじみの同社が、新たに♡のコーポレートマークを導入したのは2005年のことである。

2005年といえば、日本では少子化に歯止めがかからず、いよいよ総人口の減少が始まった年。逆風ともいえる中、「コンシューマ事業本部」の開設とともに「アメジスト マタニティブランド」をリリース、COCOROちゃんが誕生した。

出産直後のママが必要とする衛生用品を「そろえにした出産セットは、当時このメーカーもビニール袋で提供していたが、ファスナー付きの大きな不織布バッグに変え

じるのは、助産師さんをはじめとするスタッフ同士のコミュニケーションが良いところは「こうしたらどうか?」「次はこれを試してみよう」などチーム一丸となって本当に熱心に取り組まれていることです。その熱意は、自然と妊婦さんへの関わり方に表れるのではないかと思います。(聞き手・庄畑・陶守)

COCOROをつなぐブランド展開

COCOROちゃんをデザインしたところ大評判に！丈夫で軽いこのマタニティバッグは、瞬く間にママたちの愛用バッグとして様々なシーンで活躍することとなり、思わぬ広告効果が生まれたようだ。

「ココロちゃん、単に「笑顔」をデザインしたものではないぞうだ。右の●はお父さん、左の●はお母さん、口に見えるのは手をつなぐ両親。二人が手を携えて、この世に優しく迎え入れる授かりし命♡COCOROちゃんが表現されている。」

昨年6月、新たに「子育て(ベビー)」「医療(メディカル)」「くらし(ファミリ)」をブランド展開し、命の誕生から成長を通じて安全で健康な生活をサポートする企業へと進化している。



新商品も見逃せない。オサンパットの研究から生み出された技術を活用し、極上の肌ざわりを実現した生理ナフキンは、肌の弱い人にぜひ試してみたい。(陶守)

新商品 生理ナフキン

「恋はだ」



購入は web ショップで。

恋はだ 検索

<http://amethyst.b-smile.jp/>

「Livedo topics」

・2014年4月1日、おかげさまでリブドゥコーポレーションは創立50周年を迎えます。「生きる力を応援しますこれまで、これからも」をキャッチフレーズに全社員がこころひとつにして様々な活動を企画してまいります。4月には50周年記念サイトのオープンにあわせ、ホームページも一新いたします。SCKニューズのバックナンバーも掲載を予定していますのでぜひ一度ご覧ください。

・好評発売中のバルブシリンジは、使い心地の異なる2タイプの商品で、用途によって選ぶことができます。



「編集後記」

世界中にニュース網を展開するライター通信社の記事を引用しました。ライバル社であるAPP通信は「記事の引用に課金する」方針を採っているのに対して、「私たちの記事をどうぞ自由にリンクしてください。適切な引用や参照については許可するだけでなく、むしろ推奨します。」と表明しています。報道機関によって、ずいぶん姿勢が違うものなのだと知りました。私も初めての試みにドキドキしながら念のため問合せメールに原稿を送ってから発行にこぎつけました。おかげ様で日々精進です。編集長 陶守久美子